

徳島県の中山間地、神山町で高等専門学校（高専）設立の準備が動き出した。町は高齢化と少子化に立ち向かうとIT（情報技術）インフラを整備し、サテライトオフィスなどを約10年前から誘致。エンジニアやクリエイターが集まった。そんな知的集約な「田舎」にデジタル社会を担う優秀な人材を育てる機運が高まって不思議ではない。「高専を作ろう!」その背景を追う。

## 「次世代型校」新設に挑む

### サテライトオフィス集中 徳島県神山町



業者、寺田親弘社長。神山町で約20年にわたりITや農業など新サービス立ち上げを支援するNP

法人、グリーンバレー理事の大南信也氏、電通のエグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクターの国見昭仁氏など。それぞれがこれまで神山町に新しい息吹を注ぎ込んできた人物だ。

町に新しい息吹を注ぎ込んできた人物だ。

### Sansan社長ら地元とタッグ

### IT+起業精神を期待



神山まるごと高専の予定地の神山中学校の校訓の碑前で（左から電通の国見氏、Sansanの寺田氏、神山町長の後藤氏、グリーンバレー理事の大南氏）



高専の候補場所となる神山中学校

「神山まるごと高い文化」もある。町が指すところなのか。寺田氏はこう語る。「IT系の起業家たちと話をしていくと、必ずと言っていいほど「教育」についての話題になる」。現状の教育システムではIT人材を育成できない危機感にじむ。ではなぜ高専なのか。寺田氏はこう続ける。「会社に優秀な人材がいれば、高専教育を受けるチャンスをつかむことができる。幸いにも神山町には県立城西高校の神山キャンパスがあり、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を使った農業関連の連携もできる。「学びの場としての神山町の価値を高める」（大南氏）という写真真を描く。

神山まるごと高専はどんな学校になるのだろうか。計画では生徒数は1学年40人。全国から学生を募るため全寮制を敷く。教員の要員数は18人。3H(Heart) (編集委員 田中陽)

「神山まるごと高専の予定地の神山中学校の校訓の碑前で（左から電通の国見氏、Sansanの寺田氏、神山町長の後藤氏、グリーンバレー理事の大南氏）」

高専の候補場所となる神山中学校

熱い思いを真剣に受け止めたのがグリーンバレー理事の大南氏だった。大南氏の持論は「できない理由よりできる方法を考える」「方法が見つかったらすぐにやってみよう」。

神山町生まれの大きな費用は約10億円と。Head知識。Hain南氏にとって（寺田氏の考えを）放置はできない。地域住民としても真剣に取り組もうと腹をくくり、地域として関わることを決意する。今、大南氏は神山まるごと高専の設立準備委員会の代表を務めている。

奨学金集め工夫

神山町は中学を卒業した若者が町から出て行く厳しい現実がある。神山町の小中の教育システムを維持しながら、高専教育を受けるチャンスをつかむ。幸いにも神山町には県立城西高校の神山キャンパスがあり、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を使った農業関連の連携もできる。「学びの場としての神山町の価値を高める」（大南氏）という写真真を描く。

神山まるごと高専はどんな学校になるのだろうか。計画では生徒数は1学年40人。全国から学生を募るため全寮制を敷く。教員の要員数は18人。3H(Heart) (編集委員 田中陽)

準備委員会は昨年夏からコンセプト作りに着手。約4カ月かけて理念を固めてきた。その中心人物がプロボノ（ボランティア）で参加する電通の国見氏だ。議論を深めていく中で、最近の先端教育でよく用いられる3H(Heart) (編集委員 田中陽)

計画通りだと今の小学校6年生が神山まるごと高専の1期生となる。その1期生が高専を卒業するの28年。そのとき、世界、日本、そして神山町がどのような風景になっているのか。人口わずか5200人強からの挑戦が始まる。